

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870200466		
法人名	医療法人 永慈会		
事業所名	ひたちの森ガーデン	ユニット名(カトレア)	
所在地	日立市小木津町1020		
自己評価作成日	令和 5 年 7 月15 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 10 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JkyosyoCd=0870200466-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和5年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援に繋げるため、個々の能力に合わせた生活リハビリを取り入れ、役割遂行時には労いの言葉がけを必ず行い、生きがい活動となっております。
 運営母体が永井ひたちの森病院のため、利用者様の小さな変化があれば随時報告、相談を行い、特に1Fユニットは平均年齢が90歳を超えているにもかかわらず、皆様お元気で穏やかに過ごしいただいております。また、ADLの大きな変化も見られず、できることを模索し、活かすことができるよう見守りや支援を行っています。

事業所は日立北ICに近く、緑豊かな高台に同一法人の福祉施設と共に、立地している。
 経営母体は、医療機関であり、利用者、家族等から健康管理等で安心を得ている。
 事業所は生活リハビリ(食事 入浴 排泄 リハビリ 生きる喜び)の充実、実践に務めている。
 職員間のコミュニケーションが良くとれており、笑顔で利用者で向き合う、明るい職場になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットごとに理念を掲示し、外国人実習生にも分かりやすく説明を行い、共有し、実践につなげている。	理念のほかに目標を掲げ、共有している。利用者の思いに寄り添えるよう個性や人生観を大切にケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍ということもあり、外部との交流を図る機会を設けることが難しい中、近隣小学生たちが手作りの作品を届けてくださったり、ガーデンから自宅へ退所した方が訪問に来てくださったり、地域に密着できていることを認識させていただいた。	地域住民に対する相談窓口を設けている。小学生との交流がある。コロナ禍前に来訪していたボランティアの受け入れを今後再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者や問い合わせなど、管理者や介護支援専門員が主となり対応を行っている。介護保険の申請の仕方や認知症の方との接し方、また、受診の勧めなど、様々な状況に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常は利用者様代表、ご家族様代表、市職員、地域の方、他グループホーム職員などで構成された委員会を開催するのだが、今年度も資料を送付し、電話での回答を得る手段を採用した。サービス向上の手助けとなっている。	家族等の代表や利用者、市職員、地域住民等が委員となり年6回書面での開催を行っている。委員に資料を送付後、電話で回答を得ている。面会時の対応について質問があり、面会方法や感染対策について説明を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に2、3度は、必ず各課の窓口へ赴き、それぞれの法についてわからないことや疑問に思うことなどを質問し、回答やアドバイスをもらえるなど連携を図っている。	運営上の問題や介護保険運営上のことなどを相談している。行政主催の勉強会等に参加している。生活保護受給者等への相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回、身体拘束についての勉強会を執り行っている。スピーチロックなども身体拘束に該当することを、毎回の勉強会で再認識している。	身体拘束排除のための指針を作成している。定期的に勉強会を行い、どのようなことが身体拘束にあたるのかを話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、排泄介助に等にボディチェックを行い、全身状態を確認している。利用者様のできることを、できないことを見極め、できないことは強要せずに見守りや支援を行うことも、虐待防止であると勉強会を通じて学んだ。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員が主となり、年に1度、勉強会の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みや問い合わせの時ははじめ、入居が決まった時点でさらにガーデンの特色などを説明し、契約時には安心して締結できるよう取り組んでいる。疑問点は都度説明をし、納得いただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護支援専門員が、請求書や領収書などを発行するときに手紙を添えたり、返信用の封筒を添付して回答を得る機会を設けている。それらを参考に、運営に反映できる場所は取り込んでいる。	面会時や電話などで話をする機会を設け、意見や要望を聞いている。毎月家族等に送付する「ガーデン通信」に気軽に意見をよせてくれるようコメントを載せている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議、各ユニット管理者と介護支援専門員の話し合いなど、意見交換や提案を話し合い、運営に反映している。	日ごろから話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに全体会議やユニット会議で話を聞く機会を作っている。職員からの意見を取り入れて運営や日々のケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間が7時間、休憩時間が90分と、仕事と休憩のメリハリがなされており、職員にとって働きやすい環境にあると思われる。職員は、自ら研修に取り組み、自己研鑽につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会にて、全員が順に講師を務め、パソコンに落とし込むことにより、スキルアップやトレーニングを執り行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設や、近隣のグループホームと連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人をはじめ、ご家族から聞き取りを行い、課題や目標を一緒に立てることにより、信頼関係構築につなげることができている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取りや連絡を密に行い、ご家族～職員、職員～ご家族へと気軽に話し合える関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困りごとや必要な支援を介護計画に落とし込み、職員間で共有し対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは行っていただき、難しい部分を支援している。 洗濯ものを畳んだり、食器を拭き上げたりをはじめ、中庭畑の手入れや収穫を職員とともに喜びとして行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ガーデン通信や絵手紙、暑中見舞い、年賀状など、施設の様子をお知らせしており、必要時や誕生日などの特別な日には、電話での取次なども行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため面会制限があるが、年賀状や電話などで関係を維持できるよう配慮している。	フェイスシートを作成している。手紙や電話の取次や自宅への外出、外泊支援、馴染みの場所へのドライブや買い物などの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で協力し合い、洗濯物を干したりたたんだり、食器の吹き上げや作品作りに取り組めるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「たった一人の〇〇様」と、個を尊重している。 職員目線ではなく、利用者様の立場で物事を考えている。	申し送りノートに利用者本人の言葉を記入し、職員全員で共有して対応している。介護度の高い利用者からは表情やしぐさの変化を読み取って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方など、ご家族やご本人からの聞き取りをはじめ、普段の談話の中からもくみ取り、計画書に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表や計画書に沿ってサービスを提供し、常日頃より現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員が、ご本人やご家族より生活を送るうえでの要望や目標を聞き取り、計画書を立て、他職員と協議を行い推敲し、現状に即した介護計画を立てている。	家族等や利用者の意向や目標を聞き、医師の意見を取り入れて計画を作成している。毎月モニタリングを行い基本は1年で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録について、特定の職員が行っているのではなく、気づきのあった職員が逐一記入するスタイルをとっている。また、申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有することにより各職員で意見を交換し、計画に取り込んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やご本人の状況、状態は、日々変化のあるもので、ニーズも不変ではない。そのため、本部とも連携を図り、新しいサービスを生み出した経緯もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域資源との交流の機会を設けることができていなかった。市役所をはじめ、地域資源とはどのようなものがあるのか、今後しっかり把握し、活用していくこととする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は永井ひたちの森病院副院長で、月2回の往診、月1回の定期受診を行っている。永井ひたちの森病院にて対応できない場合（眼科や婦人科など）、ご家族の協力を得て他科受診に行っていた。	契約時にかかりつけ医への継続受診が可能なことを説明している。協力医療機関の医師による往診と訪問歯科診療がある。かかりつけ医への受診は家族等が付き添い、日々の様子を伝える文書を作成し持参している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	永井ひたちの森病院より、週1回看護師の訪問があり、状態報告を行っている。また、利用者様に変化が見られたときは、外来看護師に連絡し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院対象の利用者様の情報（ADLや食形態、普段のバイタルなど）を開示し、できるだけガーデンでの生活に近い環境づくりにご協力いただいている。外部の病院に入院される時も同様である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針をご説明しているが、今年になって超高齢利用者が入院された際、改めて、こういう時はこうする、まずは何を最優先にするのかを具体的に話し合う機会を設けた。緊急時は永井ひたちの森病院を中心にチームを組み、支援を行うこととした。	重度化や看取りに関する指針があり、契約時に家族等に説明して同意を得ている。状況に応じた話し合いを行い、段階的な同意を得ている。職員が定期的に研修を行うまでには至っていない。	重度化や看取りに関する定期的な研修を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外国人実習生が5名在籍しており、何かあったときは絶対に一人で判断せずに日本人スタッフに報告するというスタンスをとっている。また、日本人スタッフの中でも、緊張すると動転したり、普段どおりができない者もいるため、思案中。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	外気浴にて中庭に出る際、避難訓練を想定し、シュミレーションを行っている。地域との協力体制については、同一敷地内に2軒、隣接に1軒同法人の施設がある為、協力体制は整っている。	年2回避難訓練を行っているが夜間や地震を想定した訓練を定期的に行うまでには至っていない。訓練後反省会を行っているが得られた課題を次回に活かすまでには至っていない。	夜間想定避難訓練の定期的な実施と、災害に備えて地震、台風に備えた訓練を期待するとともに、反省会で得られた問題点を次回の訓練に活かすことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほぼすべての職員が、「その人」の尊厳を大切にし、言葉かけや対応時に活かすようにしている。	利用者の尊厳に配慮した言葉遣いに努めている。接遇の研修を行い、相手を尊重する態度を学び、信頼関係を築けるよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の中には、遠慮深くなかなか自身の思いを表出できない方もいらっしゃる。介護支援専門員が中心となり、コミュニケーションを深め、信頼関係を構築し、希望の表出や自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のご希望に添えるよう、趣味や生活歴を把握し、職員のペースではなく利用者様のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った、利用者様が着たい服装を職員と一緒に選んだり、2か月に1度の理美容の訪問では、好きなヘアスタイルを楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症対策により、現在は食事の支度は職員が行っている。テーブルを拭いたり、食器の吹き上げは、利用者様に依頼している。	コロナ禍前は外食やバーベキューを楽しんでいたが現在は休止しており、状況を見て再開する予定である。季節ごとの行事食やお楽しみメニューを提供し、食事が楽しみとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したメニューを、個々の食形態に合わせて調理している。食事量や水分摂取量は、日々の記録に入力し、誰が見ても分かるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後必ず声掛け、誘導を行い施行している。磨き残しは職員介助にて仕上げをしている。また、月1回、訪問歯科にて口腔内のチェックや歯科衛生士による口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	頃合いや時間を見て、随時排泄誘導を行っている。また、ポータブルトイレを活用し、ご自身でできる範囲で排泄をしていただいている。パッドについて、ご自身であてがうことが困難な利用者様には、貼り付けタイプを使用している。	定期的な声掛けとトイレでの自立排泄を支援することで、失禁の回数を減らすことができた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と連携し、便秘薬の処方をしていただいたり、水分摂取を促す、運動への取り組みを積極的に行っている。排泄チェック表を活用し、排便の状況を職員間で把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴声掛けに拒否をされる利用者様はいらっしゃらないため、特に希望やタイミングを考えていない。ただ、長湯が好きな方、そうではない方なふお、個々の希望に沿った入浴介助を行っている。	入浴は基本週に3~4回としているが、利用者の希望に沿っていつでも入れるよう支援している。体調に合わせて足浴やシャワー浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	デイルームにて傾眠が見られたり、超高齢利用者様には、都度ベッドで休むよう声掛けを行っている。寝具を清潔に保ち、寝心地の良い環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	外国人実習生を除き、日本人スタッフは理解しており、症状の変化が見られたときは主治医と連携を取り、利用者様の状態を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特に女性利用者様の場合、主婦として生きてこられた強みを活かし、洗濯物を干す、たたむ、食器の跡片付けなど積極的に依頼し、労いの言葉がけを行っている。塗り絵や音楽、脳トレなど、個々の好みのレクリエーションを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため行っていないが、気分転換に中庭を散歩したり、中庭でラジオ体操を行い、おやつを提供するなど、できる範囲で普段とは違ったサービスを提供している。	広い敷地内での散歩や中庭でのラジオ体操、お茶会、家庭菜園での野菜作りや季節の花の栽培を行うなどして、木々の変化や季節の風を身近に感じられるように、配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はすべての利用者様ご家族で管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の状態を判断し、手紙や電話の取次ぎの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や野菜を植えたり、利用者様の作品を室内に掲示するなど、生活感のある空間を提供している。 中庭の草引きなども、利用者様と一緒に執り行っている。	玄関前の花壇には季節の花が植栽されている。温度湿度管理された共用スペースには、観葉植物が置かれ、壁面には利用者や職員で作成した作品や行事の写真、小学生からの手紙等が掲示され、家庭同様穏やかに過ごせるよう配慮されている。ディルームでは、席の配置に配慮し、利用者同士の語らいの場になっている。畳敷きの居間には、冬には炬燵が置かれ、利用者が憩える場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ディルームの席の配置を工夫し、気の合った仲間でお過ごしいただけるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやボックスを持ち込んだり、ご家族から好みの雑貨(時計や造花、写真など)を持ち込み、馴染みのある生活が継続できるよう支援している。	床はフローリングで収納スペースも多く、広々としてゆったりと過ごせるようになっている。使い慣れたものや馴染みの品を持ち込んで自宅同様に過ごせるよう声掛けしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りを強化し、できる限り少しでも「自立した生活」が起これるよう支援している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所 ひたちの森ガーデン

作成日 令和 5 年 10 月 30 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	現在、夜間帯は各フロア1人態勢にて運営している。事故や急変に対する研修は行っているが、災害時の研修を行っていない。	突発的な災害が起こったとき、夜勤者だけではなく、敷地内スタッフとの連携を図り、利用者様を安全に避難していただくことができる。	各施設間で、自力で移動が可能な方、介助なしでは移動できない方など大まかに把握し、地震、台風、火災などの災害を想定した合同訓練を執り行う。	6ヶ月
2	33	これまで、重度化や終末期を迎えた方は、特養や病院へ移動していただいていたため、職員の経験値が低い。看取りに対するイメージも持ち合わせていない。	体調の小さな変化を見逃さず、急変時には落ち着いて行動ができるよう、個々の普段の状態を把握することができる。	利用者様一人一人のバイタルを把握、変化があったときにはすぐに測定し、他職員や病院とスムーズに連携が取れるよう訓練を行う。	6ヶ月
3	34	初期対応について、勉強会を開いているが、デモンストレーションを行ったり、実際にその場面に遭遇したことがないため、職員全員が適切な対応をできるかが不明。	誰がどの場面に遭遇しても、焦らず適切な初期対応を行うことができる。	マニュアルを活かした勉強会を開催し、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行う。	6ヶ月
4	43	その方なりの排泄パターンを把握し、極力失敗を減らすことはできているが、夜間帯の排泄パターンを職員全員で共有できておらず、適切な支援ができていない。	職員全員で利用者様それぞれの排泄パターンを把握、共有し、気分良くお過ごしいただくことができる。	職員間で排泄パターンや、パッドの種類や当て方などを把握、共有する。時間毎に誘導が必要な方、パッド交換を行う方も同様。	3ヶ月
5	48	認知症対応型共同生活介護という施設だが、特にコロナ禍になってからは、利用者様ができることでも職員が行い、利用者様の持てる力が発揮されないでいる。	利用者様は、持てる能力を最大限に発揮し、時には職員と一緒に、手助けを受けながら、日常生活を送ることができる。	利用者様のできること、得意なこと、苦手なことなどを把握する。 職員は、利用者様の役割遂行を見守り、達成時には労いの言葉がけを行う。	3ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。